

# 令和7年度本庄市地域ケア会議

## 1 地域ケア会議全体像

会議	地域ケア個別会議	地域ケア課題整理会議	地域ケア推進会議
機能	何らかの課題を抱える高齢者を支援し、課題を解決するために様々な専門職と一緒に自立支援・重症化予防について検討。個別事例の課題解決の蓄積により地域の課題を把握することも期待される。	地域ケア個別会議で把握された地域の課題について整理。課題を解決するために既存のサービスや資源の有効活用や、新たな資源の開発等について検討。	地域ケア課題整理会議で検討した結果、新たな事業化や施策化を行う必要がある場合に検討を進め、介護保険事業計画等に位置づけるなど政策へ結び付ける。
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター職員</li> <li>・アドバイザー（医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士・理学療法士）</li> <li>・民生委員</li> <li>・生活支援コーディネーター</li> <li>・本庄市担当職員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター職員</li> <li>・生活支援コーディネーター（第1層・第2層）</li> <li>・第2層生活支援体制整備協議体</li> <li>・課題整理会議の検討に必要な専門職</li> <li>・本庄市担当職員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター運営協議会委員</li> <li>・地域包括支援センター職員</li> <li>・本庄市担当職員</li> </ul>
開催頻度	各圏域ごとに4月～12月まで毎月1回	各圏域ごとに年1回	市全体で年1回

## 2 地域ケア個別会議の実施報告

	回数	事例数
西	8	16
東	8	14
南	8	16
児玉	8	14
合計	32	60

## 3 地域ケア課題整理会議の実施報告

分類	地域の課題
課題別	<b>【認知症】</b> ・家族や地域住民に認知症への理解を促進することが不十分 ・認知症の人がこれまでの生活を継続でき、安全に暮らしていくことが困難 ・認知症の疑いのある人が早期に医療機関につながる事が難しい
	<b>【地域共生】</b> ・人とのつながりや地域と関わりが希薄である
	<b>【介護予防】【健康づくり】</b> ・健康面や生活面等の不測の事態に備える意識が薄い。
	<b>【介護予防】</b> ・加齢や病気などにより、今までの社会活動を継続することができなくなる高齢者が増えている ・介護予防や自立支援、セルフケアの認識が薄く、病気や加齢に伴う暮らしの変化への備えやACPの取組も不足しているため、重度化してからの相談が多くなっている。
	<b>【生活支援】</b> ・高齢者世帯や独居、認知症や精神疾患のある人が増えている、隣近所の影響も希薄化している中で、ちょっとした生活への困りごとに対する支援の必要性が高まっている。担い手不足で支援が困難になっている。

#### 4 地域ケア推進会議の実施報告

	地域の課題	課題に対する対応・取組		
		地域包括支援センター	生活支援体制整備協議体	住民
認知症 【西】【児玉】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域住民に認知症への理解を促進することが不十分</li> <li>・認知症の人が、これまでの生活を継続でき、安全に暮らしていくことが困難</li> <li>・認知症の疑いのある人が早期に医療機関につながる事が難しい</li> <li>・認知症の方が増えているが、早期発見・早期相談ができていない。認知症への偏見があり、備えが不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する情報をまとめたケアバスをバージョンアップし、相談や支援に活用する。</li> <li>・物忘れの相談があった場合の連絡の流れを明確化する。</li> <li>・認知症に関する情報をまとめた認知症ケアバスやほんじょうネット、セルフチェック表を活用し、認知症相談窓口や専門医、支援に関する情報を地域住民等に周知する。</li> <li>・認知症サポーター養成講座を開催する。</li> <li>・学生やPTA、企業にむけて認知症サポーター養成講座の開催を呼びかけて行く。</li> <li>・認知症に関するイベントを開催する際は、周知を工夫する。</li> <li>・「認知症高齢者SOS模擬訓練」を自治会等地域で実施する。</li> <li>・地域住民に対し、車を運転できなくなった際のことを想定し、自家用車以外の移動方法について考える機会をつくる。</li> <li>・認知症の早期受診の重要性を地域住民へ啓発する。</li> <li>・サロンで出前講座を開催し、認知症の簡易チェックを実施する。</li> <li>・地域にある専門医と介護サービス事業所との顔の見える関係づくりを行う。</li> <li>・かかりつけ医と包括、ケアマネとの連携ツールを検討する。</li> <li>・地域包括センターは、「困ってから相談する場所」ではなく「気になった時に相談する場所」として周知する。</li> <li>・総合相談窓口としての地域包括支援センターを知っていただくため、各サロンの訪問や関係機関への包括だよりの配架をとおし、相談しやすい関係構築やネットワーク拡大を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり歩き高齢者等見守り事業を周知する。</li> <li>・地域の支え合いとして、見守りや声かけを行う。</li> <li>・住民同士のつながりが持てる機会として、引き続きラジオ体操の増設を検討していく。</li> <li>・市民ポプラサロンやほっと広場ふれあい遊び等、多世代交流機会に多くの方に参加していただけるよう周知活動を継続していく。</li> <li>・多世代交流ができる場所や担い手となる方の情報などを把握し、創設に向けて地域包括支援センターと連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座に参加する。</li> <li>・エンディングノートを活用して、元気なうちから家族と話し合っておく。</li> <li>・日頃からSOSを出し合える関係を築く。</li> <li>・隣近所でのあいさつなどを行い、お互いに見守りをする意識を持つ。</li> <li>・認知症の相談先を知る。</li> </ul>
地域共生 【西】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのつながりや地域との関わりが希薄である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関や介護施設に、介護予防をテーマに各分野の視点からのイベント開催について働きかけ、地域住民が顔を合わせたり、関係機関と地域とのつながりが持てる機会をつくる。</li> <li>・外出への意識の高いサロン参加者等に既存の集いの場(サロン・ラジオ体操・はにとれ教室など)を周知や、介護予防の重要性について周知・啓発をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場になっている圏域の商店について情報を収集し、包括と共有、活用を検討する。</li> <li>・小学生など子どもが関わる地域の行事に参加し、ネットワークを構築する。</li> <li>・空き農地、市の施設、空き店舗等の情報を把握し、定期的な体操教室などの介護予防に関わる機会や幅広い世代での交流の場や趣味等を活かした集いの場などの立ち上げについて検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所同士で挨拶や声かけを積極的に行い交流を図る。</li> <li>・子ども会や自治会などの参加しやすい行事から参加していき、まずは気軽に地域と繋がりを持つ。</li> <li>・近所の商店等を利用する。</li> <li>・趣味嗜好を活かした興味のあるイベントに参加する。</li> <li>・自治会ごとに開催するイベント等は、SNSや回覧で周知を図る。</li> <li>・地域住民のネットワークを活かし、サロン参加者等から、既存の集いの場や、介護予防の重要性や貢献寿命について、ロコミなどで周知・啓発をする。</li> </ul>

	地域の課題	課題に対する対応・取組		
		地域包括支援センター	生活支援体制整備協議体	住民
介護予防 健康づくり 【児玉】	・健康面や生活面等の不測の事態に備える意識が薄い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン等で人生会議や終活、相続、成年後見制度等の周知や講座開催を検討していく。</li> <li>・住民に向けてセルフケアや介護予防の重要性について説明していく。</li> <li>・通いの場がお互いの見守りの場にもなっていることを改めて伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりのきっかけや見守り、困りごとを相談しやすい環境づくりとして、ラジオ体操継続や開催箇所の増設を検討していく。</li> <li>・通院や買い物などの移動について、近所での乗り合いや支え合いについて検討していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診等を積極的に受けていただく。</li> <li>・かかりつけ医を持つ。</li> <li>・自分で自分の体を管理する意識を持ち、体調の異変時は早めに医療機関に受診する。</li> <li>・家族間で今後の生き方やもしもの時のことについて話し合いを行っていく。</li> <li>・車が運転できなくなった時のことを想定し、はにぼん号を利用してみる。</li> </ul>
介護予防 【西】【東】【南】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢や病気などにより、今までの社会活動を継続することができなくなる高齢者が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマル/インフォーマルサービスの利用者、その他地域住民に対して自立の促しを図る。</li> <li>・地域住民のフレイル予防の機会をつくり、習慣づけを図る。</li> <li>・福祉教育の高齢者体験を活用し、大人の高齢者体験ができる機会をつくる。</li> <li>・高齢になった時の自分を考えるきっかけとして、エンディングノートの活用を促す。</li> <li>・個人の生きがいを把握するため、高齢者福祉計画ニーズ調査のデータを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を対象に、はにぼん号の乗車体験の機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若いうちからの体力づくりや、健康意識を持つことを心がける。</li> <li>・年齢とともに生きがいも変化するため、まずは「貢献寿命」を意識する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防や自立支援、セルフケアの認識が薄く、病気や加齢に伴う暮らしの変化への備えやACPの取組も不足しているため、重度化してからの相談が多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防及びセルフケアの必要性を伝える方法として、チラシなどを作成し、大小商業施設、公園、スーパー等身近な場所で手に取れる場所に配架する。また参加したくなるような内容を合わせて情報提供していく。</li> <li>・通いの場などで健康づくりに関する講座等を企画する際は、はにぼんチャレンジ対象事業であることを明記する。</li> <li>・総合相談や通いの場等において、介護保険法における介護予防の意味や適切な利用、セルフケアの必要性やACPの周知・啓発を行う。</li> <li>・介護予防の取り組みとして、専門職の助言伝達や実践の支援を行う。</li> <li>・つながりのある事業者等に生活支援サポーターや認知症サポーター養成講座の周知を行う。</li> <li>・自治会や民生委員等の地縁団体に、気がかかりな高齢者についての情報共有や支援の連携が図れるよう、総合相談窓口である地域包括支援センターについて周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の各地区の風土や住民状況の情報収集/整理を行う。</li> <li>・サロン等の通いの場が、参加者同士がちょっとした変化に気が付き、声かけしあい、問題の早期発見につながる場となるよう、サロンに向き介護予防やセルフケアマネジメント、ACPIにつながるような話をしていく。また、サロン代表者や自治会の関係者も共通認識が持てるように介護予防に関する周知、啓発していく。</li> <li>・子ども食堂など子どもや高齢者が集まる場で、介護予防の話をしていく。</li> <li>・サロン等通いの場の立ち上げの際は包括・社協が協力して支援していく。</li> <li>・サロンがない地域には、既存のサロンの協力を得て、お試しサロンを実施してみる。</li> <li>・様々な集いとして集まる場所ではなく集まれることも検討する。(買物支援 等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の変化に早く気付けるよう、定期健診を受けたり、かかりつけ医を持ち、健康に対する意識を高めていく。</li> <li>・サロンなど団体登録している場合は、はにぼんチャレンジなどの申請も行い、参加者を増やしていく。</li> <li>・高齢者世代が健康でいることが、社会的に意義が大きいこと、孫世代の成長を見届ける大切な役割があることなどを認識し、セルフケアへの意識が高まると良い。</li> </ul>

	地域の課題	課題に対する対応・取組		
		地域包括支援センター	生活支援体制整備協議体	住民
生活支援【東】【南】	<p>・高齢者世帯や独居、認知症や精神疾患のある人が増えている、隣近所のつながりも希薄化している中で、ちょっとした生活への困りごとに対する支援の必要性が高まっている。担い手不足で支援が困難になっている。</p>	<p>・多世代で交流できる機会を作る（障害福祉や児童分野との連携） ・つながりの場など新規立ち上げの相談があった場合は支援を行う。</p> <p>・食の提供が介入困難な方へ有効な切り口になり得るため、子ども食堂やサロンでの食の体験も活動の参加への動機づけに繋げる。</p> <p>・必要な生活支援を把握するため、調査を行う</p> <p>・自治会などで実施している見守り体制を把握し、支援が必要な人について情報がいただける関係づくりを構築する。また、自治会の取組が他地域に展開できるようなしかけを生活支援コーディネーターと検討する。</p> <p>・サポーター（介護予防・生活支援・認知症）の活動の場の検討や、ニーズとのマッチングを進める。</p> <p>・生活支援サポーターもボランティア保険加入するなど活動の基盤を整えるため、市や社協と連携する。</p> <p>・問題が大きくなってから相談するのではなく、早期発見・早期介入の利点を認識し普段からの健康づくりへの意識向上やセルフケア向上をめざすため、健康診査等の周知と受診を勧奨する。</p>	<p>・様々な地域住民へ声掛けし、各地域像の見える化や地域とのネットワークの拡充を図る。</p> <p>・通いの場や生活支援の担い手となりそうな人材や活動拠点の場についての情報を収集し、包括と共有、連携して立ち上げ支援や活動へつなげる。</p> <p>・自治会独自の支え合い等の取り組み情報を把握し、他の自治会へ伝え地域の支え合いの仕組みを繋ぐ。</p> <p>・サロンに出向いた際など、他のサロンの取組等の情報を提供していく。</p> <p>・生活支援サポーターの地域住民同士の支え合いの意識を高める。</p>	<p>・地域とのつながりを持ち（サロンなどへの参加）、孤立を防ぐ。</p> <p>・隣近所の付き合いが生まれる絆作りや仕掛けを考える。</p>

5 令和6年度の課題に対する令和7年度の地域包括支援センター  
及び生活支援体制整備協議体の活動報告について

地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
	R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
<p>【移動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許証返納後の移動支援があるとよい。</li> <li>・本庄市外へも安価で利用できる移動支援があるとよい。</li> <li>・湯かっこへの送迎バスがあるとよい。</li> </ul>	<p>①対象となる人には福祉タクシー利用券の利用ができることを周知する。</p> <p>②運転免許返納後の自分の移動手段を考える機会や、実現方法等を支援する場面を作る。</p>	<p>①②移動手段について相談があった方に、個別で「シルバーサポーター制度」の活用で、タクシー料金の割合等が受けられることを情報提供した。</p>	<p>①住民による移動支援の周知を行い、担い手を養成する。</p> <p>②はにぼん号の活用を促すため、乗車体験や予約方法の案内等の取り組みを継続する。</p> <p>③福祉施設の車両の空いている時間帯での活用の可能性について、第1層生活支援コーディネーターと協働で調査する。</p>	<p>①「幸せのまごころさぼーと」立ち上げ支援を行う。活動は令和8年2月開始となる。</p> <p>②西包括だより(令和7年4月号)にて、はにぼん号の利用方法の変更点について掲載し、周知を行った。</p> <p>②サロン訪問時、公共交通ガイドを配布。はにぼん号の周知を行った。</p> <p>③市内の福祉施設等への施設車両の空き時間等の調査をアンケートにて実施する案が挙がっているため、検討を進める。</p>
<p>【地域主体の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業でない地域主体のスマホを利用した安否確認ができる」とよい。</li> <li>・見守りや地域の支え合いから、気になる高齢者に早めに気づき、支援機関(センター、民生委員、チームオレンジ等)につなげられるとよい。</li> </ul>	<p>①小中学生に登下校時などに気になる高齢者を発見したら、学校や身近な大人に知らせることを伝えていく。</p> <p>②地域の商店に高齢者に関する相談先であるセンターを周知する。</p> <p>③サロンや自治会行事等に出向き、住民からの気になる高齢者の情報を聞き取り、民生委員につなげていく。</p> <p>④気になる高齢者の早期発見と見守りのため、ウォーキングクラブ等に、高齢者の相談機関としてセンターがあることを周知する。</p> <p>⑤心配な高齢者に気付けるよう、気にかけてもらいたい高齢者の変化のポイントを学ぶ機会をつくる。</p>	<p>①小中学生に高齢者への対応について、知って学ぶ機会として、認知症サポーター養成講座を実施した。</p> <p>②④協議体「課題に対するR7の活動」に記載→包括②④</p> <p>③サロン訪問時に、地域の高齢者の相談を受け、対応を行った。</p> <p>⑤高齢者が特に注意したい体調の変化として、夏季では熱中症、冬季では感染症等について、そのポイントも併せて、西包括だより(令和7年7月号・令和8年1月号)に掲載し、周知を行った。</p>	<p>①ひとり暮らしや高齢者世帯に定期訪問をすることで、相談しやすい関係を作る。</p> <p>②緊急安否確認アプリ(小島南自治会で活用)について、包括だより等で紹介し、他地域での利用拡大につなげる。</p> <p>①西包括職員による高齢者世帯への見守り訪問を継続した。</p> <p>②緊急安否確認アプリ(小島南自治会で活用)について、西包括だより令和8年2月号にて紹介し、周知を行う予定。</p> <p>包括②④地域包括支援センターが高齢者に関する相談先であることを周知するため、プラチナ・サポート・ショップに登録していただいている店舗等にセンターを周知し、今後、西包括だよりの配置等についても依頼していく。</p>	

	地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
		R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
本庄西地域包括支援センター	<p>【介護負担の軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴だけできるデイサービスがあるとよい。</li> <li>・介護負担軽減のために、訪問介護事業所が充足する必要がある。</li> <li>・難病や気管切開している方の対応ができたり、レスパイト入院ができる医療機関があるとよい。</li> <li>・仕事と介護の両立のための制度の周知が図れるとよい。</li> <li>・介護サービスに頼らないでも、介護負担が軽減される方法があるとよい。</li> <li>・介護者教室等で介護技術を学べる機会があるとよい。</li> </ul>	<p>①高齢者に必要な食事の紹介や介護技術を学べるような介護者教室やサロン等への出張講座の開催、SNS等での発信を行う。</p> <p>②病院や薬局などに、センターのパンフレットやチラシを配置してもらい、介護に関する相談先を周知する。</p> <p>③中高生の介護体験の機会づくりへの協力を行う。</p> <p>④仕事と介護の両立のための制度について継続し周知していく。</p> <p>⑤介護者サロンの周知や、介護者同士で悩みなどを話し合える機会を作る。</p> <p>⑥レスパイト入院ができる医療機関の紹介ができるよう、病院とセンターが連携を図る。</p>	<p>①令和7年度介護者教室にて、介護技術を学ぶ講座を開催し、移乗介助や食事介助などを学んだ。</p> <p>②薬局に介護者教室のチラシ配架を依頼し、介護者教室を通して、地域包括支援センターで介護に関する相談が可能であること周知した。</p> <p>③機会づくりは行えていないが、社会福祉協議会と連携し、社協主催の「福祉教育出前講座」について周知を図っていく。</p> <p>④西包括だより(令和8年3月号)にて、仕事と介護の両立についての制度紹介をし、周知する予定。</p> <p>⑤認知症家族の会の周知をした。</p> <p>⑤介護者教室の講座内で、介護者同士が悩みを共有できる機会を作り、今後の介護者同士の繋がりの場のきっかけづくりを行うよう、検討する。</p> <p>⑥個別相談の中で、レスパイト入院可能な病院を紹介し、入院調整について病院と連携を図った。</p>		
	<p>【サービス導入前の専門職のアセスメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受診につながる前の段階で、精神科や精神病院の精神保健福祉士等がアウトリーチできるサービスがあるとよい。</li> <li>・サービス導入前に、理学療法士や作業療法士等が関わり、アセスメントしてもらえるとよい。</li> <li>・専門職が在宅訪問して、アセスメントができるとよい。</li> </ul>	<p>①精神科の専門相談窓口や障害者基幹相談支援センター、総合相談窓口の周知を行う。</p> <p>②ケアマネジャーにケース対応の参考としてもらえるようケース対応の成功体験談を共有する。</p>	<p>①アルコール依存や精神疾患を持つ高齢者についての相談や地域のケアマネジャーからの相談時に、専門の相談機関につなげたり、紹介を行った。</p> <p>②西地域ケアサポート連絡会にて、圏域のケアマネジャーと困難事例を共有し、他機関との連携について考える機会をもった。</p>		

地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
	R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
<p>【訪問によるフレイル予防等の啓発】 ・閉じこもり予防、フレイル予防などの必要性を伝える訪問講座があるとよい。</p>	<p>①フレイル予防の重要性について、広報紙等で周知する。</p> <p>②栄養状態や食事摂取状況、体重や筋力などのスクリーニングを行うため、フレイルに関する既存の自己チェックを行い、フレイルに関する啓発をする。</p> <p>③介護予防出前講座での栄養講座やフレイル予防講座の受講について、サロン等への周知を継続する。</p> <p>④高齢者の栄養に関する講座を開催する。</p>	<p>①西包括だより(令和7年10月号、11月号、12月号)にて、フレイル予防について、運動(外出)、栄養、口腔についての重要性を周知した。 ①社協だより(令和7年12月15日号)にて、フレイル予防について掲載し、周知・啓発を行う。</p> <p>包括②、協議体①本庄市社会福祉大会時に、会場の包括ブースにて、フレイルチェックコーナーを設置。ふくらはぎ指輪つかテストや基本チェックリストを実施し、来場者にフレイル予防について知ってもらう機会とした。</p> <p>③来年度以降、サロン訪問時に、介護予防出前講座での栄養講座やフレイル予防講座の受講について、本庄市が行う出前講座等の情報提供と受講について勧めていく。</p> <p>④令和7年度介護者教室にて、高齢期に必要な栄養について学ぶ講座を開催した。</p>	<p>①フレイルについての問題意識があるかを、アンケートや聞き取りにて把握する。</p> <p>②高齢者はどんな活動に興味があるかを調査し、徒歩圏内に興味のある活動の集いの場を作る。</p>	<p>①包括「課題に対するR7の活動」に記載→協議体①</p> <p>②あったかほ一む下野堂で、ラジオ体操の会の立ち上げ支援を行った。令和7年12月からあったかほ一む下野堂駐車場にて開催している。 この他、つきみ荘、はにぼんプラザ、ピバモール本庄の3会場についても、活動支援を継続した。 ②調査は未実施だが、サロン等の集いの場がない自治会を中心に、ラジオ体操やサロン等の情報提供を行いつつ、アプローチを図っていく。</p>
<p>【若年の方の集いの場】 ・同年代(50歳代)、同趣味(パソコン・麻雀等)の方の集う場があるとよい。 ・脳血管疾患の後遺症(若年)の会があるとよい。</p>	<p>①若年層の集いの場を開催できる人の発掘と活動支援を行う。</p> <p>②若年層がどのような集いの場を求めているのか、ネットやSNSを活用する等でニーズ調査する。</p> <p>③仲間づくりの重要性を広報で周知する。</p> <p>④難病指定相談支援センター等の相談機関と連携を図り、当事者の集いの場の情報を収集し、周知する。</p> <p>⑤当事者団体と繋がり、情報発信のサポートをする。</p> <p>⑥病気の診断時に、病院(相談員)から当事者団体の情報提供を行ってもらえるよう連携する。</p>	<p>①②求められている集いの場や中心となる人の発掘等については、今後、どのような取り組みができるか検討していく。</p> <p>③活動につなげるための仲間づくりの重要性について、フレイル予防の中で、外出や社会参加の重要性を周知した。</p> <p>④近隣の地域で活動している当事者の集いの場の情報収集を行い、必要な人に情報提供できるよう今後、取り組みを進めていく。</p> <p>⑤⑥地域包括支援センターとしてどのような取り組みができるか今後、調査、検討していく。</p>	<p>①当事者団体と繋がり、情報発信のサポートをする。</p> <p>②幅広い年齢層で共通の関心が高い食のイベントやマーケットの情報提供を行い、参加することで若年層でも繋がる機会を設ける。</p> <p>③健康マージャンなどの若年層にも関心の高い既存のサロンを周知する。</p> <p>④病気・障害がある当事者の方の中で、リーダーになれる方を支援し、場を作るための支援を行う。</p>	<p>①若年層や病気・障害がある当事者団体との繋がりは築けていないが、団体の情報収集や現在の関係機関との繋がりを拡大を図り、当事者団体等との繋がりを構築を努めていく。</p> <p>③健康マージャン等の活動を行っているサロンや介護施設等の情報収集を行い、必要な人に情報提供を進めていく。</p> <p>②④協議体としてどのような取り組みができるか今後、調査、検討していく。</p>

	地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
		R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
本庄東地域包括支援センター	集いの場・外出する場所について	<p>①年齢/性別/障害の有無に関係無く、住民同士で気軽に集まれる機会や場が少ない。</p> <p>②サロン等立ち上がっていない地域がある他、参加者の減少や担い手がいない等で、地域活動が縮小している地域もある。</p> <p>③移動手段が限られていたり、公園等に手すりが無い等で外出や社会参加の機会が少ない住民がいる。また地域との接点が少なく、外出意欲の無い住民もいる。</p>	<p>①ラジオ体操等の支援や開催状況の把握を行った。</p> <p>②総合相談をや地域ケア会議を通して、地域性の把握や理解に取り組んだ。</p> <p>③オレンジカフェタクシーやはにぼん号、各集いの場への参加に繋がるよう、地域住民へ働きかけた。また、住民からの要望を伺い市担当課と連携を図った。</p>	<p>①年齢/性別/障害の有無に関係無く、住民同士で気軽に集まれる機会や場が少ない。</p> <p>②サロン等立ち上がっていない地域がある他、参加者の減少や担い手がいない等で、地域活動が縮小している地域もある。</p> <p>③移動手段が限られていたり、公園等に手すりが無い等で外出や社会参加の機会が少ない住民がいる。また地域との接点が少なく、外出意欲の無い住民もいる。</p>	<p>①市街地でのラジオ体操普及を行い、新規で2カ所立ち上げ支援を行った。</p> <p>②市街地にて新規サロン立ち上げに向け支援を行った。</p> <p>③買い物送迎支援やラジオ体操参加者を対象にランチ会を通じた社会参加や他者交流の機会を創出した。</p>
	ボランティア等の地域での支援活動について	<p>①各種サポーター(はにとれ/生活支援/認知症)がいるものの、生活の中でのちょっとした困りごと(スマホの操作/ゴミ出し/家具移動等)とのマッチングが十分にできない。</p> <p>②制度やサービスで対応できない困りごと(窓口手続きの代行や付き添い等)を支援/相談できる体制が十分でない。</p>	<p>①各サポーターや住民から支援を得られるよう、第1層生活支援コーディネーターや民生委員と連携し困りごとと支援をつないだ。またマッチングしやすい体制作りのため、第1層生活支援コーディネーターへ登録情報に係る内容について提案を行った。</p> <p>②生活支援課と連携を図り対応について検討した。また地域で支援体制が図れるよう、自治会への働きかけも図った。</p>	<p>②制度やサービスで対応できない困りごと(窓口手続きの代行や付き添い等)を支援/相談できる体制が十分でない。</p>	<p>②各サポーター登録者への相談や調整を行い、連携を図った。</p>
	行政及び専門職との連携について	<p>①高齢世帯や支援者が近くに居ない世帯が増えている。</p> <p>②緊急通報システムや福祉サービスへの需要が増え、専門的な支援や助言が必要な場合がある。</p>	<p>①②総合相談や個別ケースを通じて、各行政担当者や調整しながら適切な利用について助言するとともに、医療との調整を図った。</p>		

	地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
		R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
本庄南地域包括支援センター	<p><b>【課題】</b> 認知症高齢者を介護する家族が地域で安心して生活するための取り組み</p> <p><b>【理由】</b> ・(認知症の対象者が)施設へ入所した際の心の葛藤を抱えている ・認知症に関する知識を得る機会が不足している ・介護者の負担に対する地域間での支援が不足している(インフォーマルサービスの不足)</p>	<p>①認知症サポーター養成講座の開催や認知症家族の会、オレンジカフェ等に出席する事により、介護者や地域住民の相談窓口としてこれからも機能していく。</p> <p>②状況によっては、介護サービスに繋いだりケアマネジャーに同行したりといった、実働的な支援も実施を検討する。</p>	<p>①認知症サポーター養成講座は、キャラバンメイトの会と協働し、けや木地区のサロンにて開催した。キャラバン・メイトと協働して実施することにより後方支援をした。 また認知症家族の会やオレンジカフェは継続的に開催し、認知症ケアパス等を活用して住民の方へ相談窓口の周知を図った。</p> <p>②ケアマネジャーから支援を求められた際には、優先課題を共有し、解決まで他機関の協力を求めながら支援をした。また支援内容は記録し共有している。</p>	<p>①介護者が考えるちょっとした困り事に対応できるよう、支援の体制を整える。</p> <p>②ボランティアやサポーターの人数を増やし、地域での活動に取り組んでもらえるよう、声掛け・周知活動を行っていく。</p>	<p>①定期的にサロン等の集いの場に出向き、参加者と顔の見える関係を構築することにより、相談しやすい環境を作り、把握した困りごとを、支援に繋げるように努めました。</p> <p>②R7年度は、南サポーター1名、四季の里買物支援ボランティア1名参加していただき、地域での活動と一緒に取り組んでいただきました。</p>
	<p><b>【課題】</b> 地域で生活する高齢者が利用出来る移動手段の検討</p> <p><b>【理由】</b> ・移動手段は地域によって利用出来る社会資源がまばらで、中には移動支援だけでなく買い物支援等もない空白地もある ・手続き出来ない方や歩行に不安がある方といった、支援が必要な方の為に、付き添いや見守りといったボランティアも並行して探す必要がある ・直接車を運転し送迎支援を担ってくれるボランティアを発掘する必要がある</p>	<p>①生活支援コーディネーターに協力、あるいは支援し、担い手候補や社会資源、地域住民のニーズ等の情報を共有する。</p>	<p>①総合相談等、日常業務の中で知り得た社会資源の情報(具体的な情報の内容を記入していただけるとよいと思います。下欄同様。)を記録し、生活支援コーディネーターと情報を共有した。</p>	<p>①移動支援の目的は基本的に買い物や通院等の生活に直結する所を中心と考えられるが、例えば友人宅への訪問や趣味活動の為のお出掛け等、様々な目的で利用できるよう取り組みを立ち上げる段階から検討していく。</p> <p>②ドライバーを担う方が免許を所持していなくても活動に協力いただけるよう、自転車や人力車のような、免許がなくても運転できる乗り物の活用を検討する。</p> <p>③移動手段のみ支援するのではなく、付き添いや見守りも同時に担ってくれる取り組みの立ち上げを検討する。</p> <p>④住民主体の移動支援に興味を持ってくれた方に対して協力し、新たな社会資源として立ち上げられるように連携を図る。</p> <p>⑤担い手を募集する際、活動を知ってもらったりイメージを付けてもらったりできるよう、ボランティアの体験会や勉強会の開催を検討する。</p> <p>⑥社会資源に繋がりがそうな方や転入後間もない方などにアプローチし交流を図っていく。</p> <p>⑦相乗りタクシー等、他市町村で実施している取り組みが本庄市にも取り入れられないか検討する。</p>	<p>・地域住民で移動支援に興味を示してくれた方に伴奏型で支援に取り組みました。今後も周知を続けるとともに、地域の実情にあった移動支援の方法について検討していきたいと思えます。</p> <p>・民生委員定例会や地域の集いに出席した際に地域の支え合いについて具体的に説明をしました。今後も周知を続けるとともに、地域の活動に興味を示してくれる方を探していきたいと思えます。</p> <p>・生活支援サポーター養成講座にて買物送迎支援等の説明を行うことによりサポーターと連携を図り、必要とする人に支援が繋がるように努めました。</p> <p>・タクシー券配布の再開について、市へはたらきかけていきたいです。</p>

地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
	R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
<p>【課題】 サロンやはにトレ教室のような集いの場の立ち上げについて</p> <p>【理由】 ・歩いて行ける距離に集いの場がない地域がある ・集いの場がない要因として、支援者がいない地域や会場確保が出来ない地域がある</p>	<p>①第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域の集いの場に関する情報を集め共有する。</p>	<p>①総合相談等、日常業務の中で知り得た社会資源の情報を記録し、生活支援コーディネーターと情報を共有している。</p>	<p>①一般住宅を会場とするサロンの立ち上げの検討について、所有者とコンタクトを取り、立ち上げまでの段取りや運営方針等、市役所高齢者福祉課や社協とも連携しながら協働する。</p> <p>②(サロンに比べて)会場確保がしやすいラジオ体操の普及について、立ち上げのお手伝い等協働していく。</p> <p>③既存の集いの場は自治会館や公民館等を会場とする場合が多いが、それに限らず様々な建物での集いの場の開催を検討する。</p> <p>④特に学校の空き教室を会場として借りる事ができれば、社会資源として非常に有益である為、コンタクトを図ってみる。</p>	<p>・サロン等の集いの場や民生委員定例会で情報収集をし、活動に興味を示す住民や利用可能な建物を探し、立ち上げに協力していきます。</p> <p>・日々の相談業務やケアマネジャー・サービス事業所から情報をいただき、活動に興味を示す住民や利用可能な建物を探し、立ち上げに協力していきます。</p> <p>・市や社協の協力を得て、実際に活用が可能であるか確認し、活動の場を求められている方に情報提供し、協議体で立ち上げに協力出来るよう努めます。</p>

	地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
		R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
児玉地域包括支援センター	<p>【認知症について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する正しい知識の普及が必要である。</li> <li>・独居や高齢世帯等、認知症に限らず地域で困っている人を見守る体制が必要。</li> </ul>	<p>①各サロン等の集まりでの認知症サポーター養成講座等の開催や認知症相談窓口、センターの紹介等を行う。</p> <p>②市で行っている認知症の事業についてまとめたチラシ等の作成や、ケアパスを活用し周知する。</p>	<p>①大久保地区や介護サービス事業所を対象とした認知症サポーター養成講座を開催したほか、市主催市民向け認サポ、ステップアップ教室への協力を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市、各包括と協働で認知症普及啓発イベント開催した。</li> <li>・オレンジカフェの開催を継続した。</li> <li>・オレンジサポーターによる「ほっとこだま」オレンジカフェへのボランティア協力をいただいた。</li> </ul> <p>②相談者等へ市、包括の認知症事業の周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児玉圏域のケアマネと協働で、介護サービス事業者や病院に認知症対応事例の聞き取り調査を行い、「認知症対応事例集めました。」を作成し協力団体へ配布した。</li> </ul>	<p>①認知症サポーター養成講座修了者等と活動の方法等を協議していく。</p> <p>②地域の見守り体制の構築について協議していく。</p>	<p>①本庄市に登録する児玉地区の3サポーターのボランティアと会議を開催し、活動報告会及び各事業への協力者を募った(R7/4)。</p> <p>②新たな見守り体制整備の構築はできていないが、民協定例会のなどに出席し顔の見える関係の構築を継続した。引き続き見守り体制の構築に向け協議を続けていく。</p>
	<p>【専門職の活用や人生会議(ACP)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な時から生活上どのようなことに注意して暮らしていけばよいか専門職等に評価やアドバイスをもらう機会がない。</li> <li>・健康な時から人生の最期をどのように迎えるのか、家族間で話し合いができていない。</li> </ul>	<p>①健康相談窓口の周知や健康の自己チェック、自己管理能力を高められるような方法を検討する。</p> <p>②平均寿命と健康寿命がわかるチラシを作成し配布する。</p> <p>③ACPの講座開催やエンディングノートの配布を行う。</p>	<p>①栄養に関する相談として、児玉圏域のケアマネと協働で栄養相談シートを作成した。また、地域ケア個別会議のアドバイザーである鈴木外科病院・管理栄養士に状況に応じて栄養相談ができる体制を整えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエルカフェにて、今年度新たに本庄市児玉郡地区在宅歯科医療推進窓口地域拠点の歯科衛生士を講師とした口腔ケアの講座を開催。(R7/5)</li> </ul> <p>②児玉包括だよりにて健康寿命と平均寿命について掲載した。より周知できるようブログにもアップしている。(R7/5)</p> <p>③ウエルカフェこだまにて、人生会議をテーマとした講座を開催した。(R7/11.12)本庄市作成のエンディングノートや私の連絡先カードの配布を行った。また、相談者等にエンディングノートや私の連絡先カードを配布している。</p>	<p>①ラジオ体操やウォーキングなどの健康増進を図る企画を計画していく。</p>	<p>①ラジオ体操の開催や周知を継続した。また、共栄会館にてラジオ体操を新規に立ち上げ(R7/6)、現在児玉地域で5カ所開催している。引き続き開催箇所の増加を検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雉岡城跡にてウォーキング講座を開催した。(R7/11)</li> <li>・市民ポブラサロンやウエルカフェこだま、ほっと広場ふれあい遊び、みんなの会議室、千羽鶴企画など地域の皆様に心身ともに健康で過ごしていただける事業を継続中。</li> </ul>

地域の課題	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体	
	R6年度の課題	課題に対するR7の活動	R6年度の課題	課題に対するR7の活動
<p>【移動支援や男性の活躍の場について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の支え合い等での移動支援が少ない。</li> <li>・男性が支える側としての活躍の場がない。</li> <li>・サロン等に男性参加者が少なく、若年層が集まりやすいサロンがない。</li> </ul>	<p>①今あるサロン等を周知し参加を促していく。</p> <p>②技ありボランティア等の活躍の場を周知し参加を促していく。</p>	<p>①相談者等に地域のサロンや技ありボランティアの情報提供を行った。</p> <p>②ウエルカフェこだまにて、特技をお持ちの地域の方を講師に招き、歴史についての講話や手芸などの講師をしていただいた。</p>	<p>①はにぼん号の利用についての予約の取り方講座等を開催する。</p> <p>②各サロン等で市の補助金を活用した住民主体の移動支援があることを周知していく。</p> <p>③生活支援サポーター等の修了者に具体的な内容を伝えながら協力者を集い、新たなサロンの立ち上げや既存のサロンの協力を依頼する機会を検討していく。</p>	<p>①はにぼん号の予約の取り方講座等の開催はできていないが、相談者等には、はにぼん号の紹介や必要に応じて予約方法等について説明を行った。はにぼん号のスマホ予約について、市民ポプラサロンにて生徒に教えもらう機会を作った。</p> <p>②児玉包括だよりにて、本泉ささえ愛の会にて立ち上げられた住民主体の移動支援について掲載した。より周知できるようブログにもアップしている。(R7/9)</p> <p>③本庄市に登録する児玉地区の3サポーターのボランティアと会議を開催し活動報告会及び(R7/4)各事業への協力者を募り、はにとれ教室でのリーダーや包括事業への参加や協力をしていただいた。</p>